

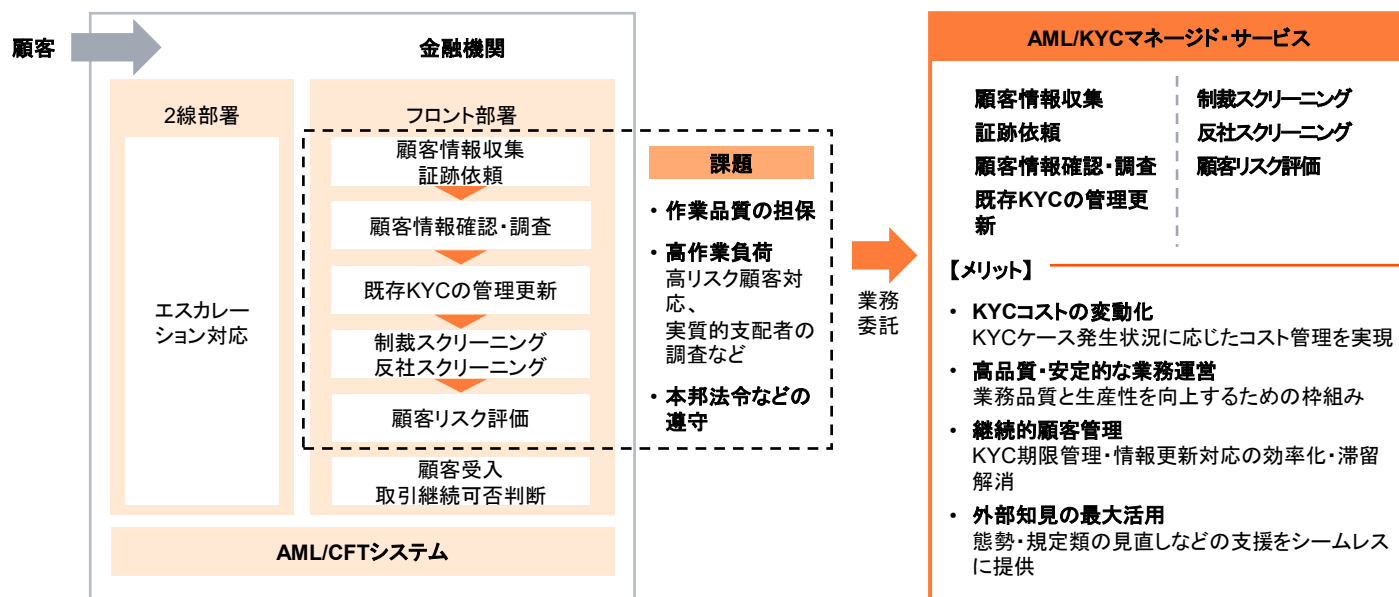


AML／KYCマネージドサービスのご紹介

業務知見に基づいた、AML/KYCオペレーション^{*1}の外部委託を実現します。

金融機関におけるAML/KYC業務は、高度な専門性と判断を要し、品質維持や安定的な運用が難しい領域です。PwC Japan有限責任監査法人では、コンサルティング業務で蓄積した知見と、研修・OJTを通じて育成した専門人材を組み合わせ、委託元の基準に沿った高品質なオペレーションを提供します。PwCグローバルネットワークとの連携により、急増する業務量にも柔軟に対応が可能です。

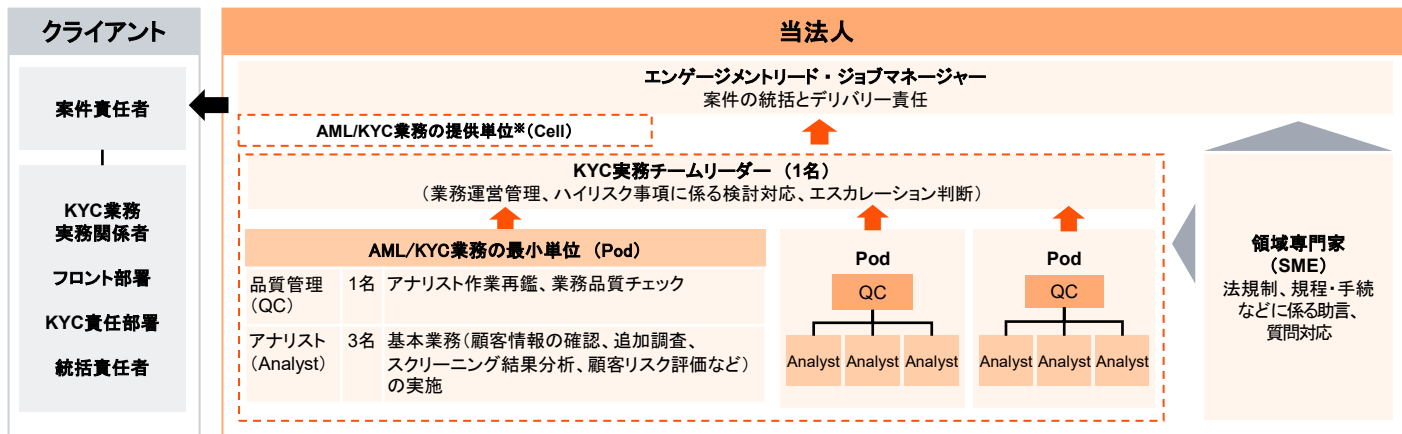
AML/KYC業務を委託することにより、当該業務のコストを処理件数単位で変動費化させることが可能となります。また、KYC期限管理・情報更新対応の効率化や、高品質かつ安定的に業務を運営することで、リレーションシップマネージャーが本来業務に専念できる環境を整えることができます。



^{*1} 本人確認、金融機関のリストなどに基づく制裁者チェック、不芳情報確認を指します。

高品質・柔軟な業務量調整を可能にするサービス体制

3名の実施者と1名の品質管理担当が監督する「Pod」を構成し、複数の「Pod」をリーダーが統括します。



(※) 想定される業務ボリュームに応じてCell数を調整

安定的な業務品質を支える研修プログラム

大手金融機関との実績を有するPwCグローバルネットワークの研修・認定制度を基盤に、短期間でのチーム組成が可能です。

テーマ	研修内容	
Week1 (座学)	AML/CFTの基礎理解 1. AML/CFTの基礎と全体像 2. KYCの基礎と関連情報 2.1 KYC/CDD/EDDについて 2.2 KYCに係る業務要件、AML/CFTの観点で留意すべき法人の役職者 2.3 実質的支配者、法人所有構造のリサーチにおける留意点 2.4 制裁/PEP/不芳情報スクリーニング	AML/CFTの概念、基本的な考え方やリスク管理上の着眼点、法人顧客デューデリジェンス時の実務上の留意点を詳説
	AML/KYCマネージドサービス業務の手順 1. KYC業務の手順・具体例 2.1 顧客情報の収集・確認/初期的デューデリジェンス 2.2 制裁・不芳情報スクリーニング/アウトリーチ 2.3 高リスク事象に係るコンサルテーションとエスカレーション 2.4 作業完了時の確認項目と作業完了後の対応 2. 品質管理枠組み	AML/KYCマネージドサービスの概要および、その具体的な手順をプロセスに沿って解説
Week2 (演習)	1. シャドーイング(現場担当者が作業をstep by stepで解説) 2. ケース演習(例) 2.1 国内・上場企業 2.2 国内・非上場企業 2.3 海外・上場企業 2.4 海外・非上場企業 2.5 海外・ファンド 2.6 日本・非営利団体 3. 業務習熟度測定 (独力作業で一定の品質スコア達成を求める)	さまざまな法人形態・業種のケース演習を重点的にを行い、到達度テストを通じて業務へのReadinessを確認

(※) この他、OJTを通じた育成と再鑑実施者などに関する認定制度があります。

本サービスに関するお問い合わせ

ご関心をお持ちの方は、お気軽にお問い合わせください。
Webサイトにて、本サービスの詳細も紹介しています。



お問い合わせ



サービス詳細

特記事項

PwC Japanグループの監査クライアントである企業、ならびに監査法人やコンサルティング会社など、類似の専門サービスを提供する事業者には、本サービスをご提供することができません。ご理解のほど、よろしくお願いします。

© 2026 PricewaterhouseCoopers Japan LLC. All rights reserved.

PwC refers to the PwC network and/or one or more of its member firms, each of which is a separate legal entity. Please see www.pwc.com/structure for further details.